

つなぐ



諫早市立大草小学校
特別支援教育
コーディネーターだより
H30.11.2 No.22
文責 林田

☺ 育てるって… ☺

毎日様々なスポーツのニュースを目にする中、今、一番注目されているのはプロ野球日本シリーズでしょうか。セリーグ・パリーグどちらのチームも、優勝目指して、一つ一つの試合で、その場面にふさわしい選手を送り出し、見ごたえのある勝負が繰り広げられているようです。



これに先立ち行われたプロ野球ドラフト会議では、高校野球等で注目された選手たちが、12の球団それぞれの指名を受けました。入団交渉が成立したあかつきには、プロとしての生活がスタートします。

しかし、今年指名を受けた選手のすべてが、日本シリーズのようなひのき舞台で活躍するとは言えません。「プロとして育てられる」途中で挫折する選手もいるでしょうし、見事花を咲かせる選手もいることでしょう。「選手の資質を見抜きどのような方法で育てていくか」にかかっていることは言うまでもありません。



そのような中、10月30日に行われた諫早市の小体連で、本校の唯一の6年生である依里さんが、立派に成長した姿を見せてくれました。

実は、この小体連に向けて、1年以上前から準備を進めてきました。依里さんや保護者の方と話し、担任を中心に学校全体で指導・サポートしてきました。

その結果、依里さんの努力が実り、堂々とした姿で本番を迎えることができたのです。

これは、学校と家庭との連携が本人の努力とうまく結びついて「育った」成功例と言えます。(小体連の様子は、諫早ケーブルテレビで11月11日に放送予定です。)

今回は、この「育てる」ことに関するお話をしてみたいと思います。

☺ 早期発見と環境調整で「育てる」 ☺

一昨日、長崎大学教授の吉田ゆり先生の講演を聴く機会がありました。吉田先生は特別支援教育の在り方について研究をなさっている方です。2時間近い講演の中で特に興味深かったのは次の3点です。

「早期発見」の重要性

発達障害のある子にとって、「叱られる」ということは、「自己を否定された」と感じる要因になることがあり、自信を無くすことがあります。



ぼくは、なぜ叱られているの？
ぼくは、何をやっても
だめなんだ…。

早期にその子の障害に気付く(早期発見する)ことができると、問題行動を起こした時に、叱る回数を減らすことができます。つまり、叱らずに適切な支援をし、その子の成長を促すことができるのです。

「環境調整」とその引継ぎ

発達障害がある子の「困り感」を減らすには、その子に合うように環境を整えることが大切(環境調整と言います)です。

例えば、「聞いて覚える」ことが苦手な子には、「書いて掲示する」、「読むこと」が苦手な子には、「絵に描いて伝える」などがそれにあたります。

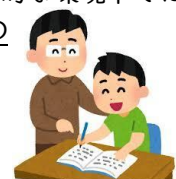
そして、学年や学校が替わる時に、その子に合った環境について、きちんと引継ぎをすることが重要です。

「学び」の環境

人は、穏やかな環境でより学ぶことができる。

不安定で、追い詰められ、強迫的な環境下では正しい学びは得られない。認知のゆがみが起きる。

※「認知のゆがみ」については、次号で詳しくお伝えします。



子どもの育ちを促すには、発達障害の有無に関わらず、「その子を知る」ことからスタートします。より正しく理解するためには、学校・家庭の両方での姿を互いに伝え合うことが重要です。

保護者の皆さんと学校で「チーム大草」として子どもたちを育てていきましょう。